

中学校

技術・家庭科のあゆみ

開隆堂
東京書籍

昭和22▶25年度
《職業科時代》

時間数
各学年とも
週4時間

農業科, 工業科,
商業科, 水産科,
家庭科
●学校は1科目ま
たは数科目を選択
して履修させる。

内容と学び方

昭和26▶31年度
《職業・家庭科時代》

各学年とも
週3~4時間

第1類(栽培, 飼育, 漁,
食品加工)
第2類(手技工作, 機械
操作, 製図)
第3類(文書事務, 経営
記帳, 計算)
第4類(調理, 衛生保育)
●地域社会の必要性と学校や
生徒の事情によって適当なも
のを選択して履修させる。

昭和32▶36年度
「技術・家庭科」設立準備

各学年とも
週3~4時間

第1群(農業) 第2群(工業)
第3群(商業) 第4群(水産)
第5群(家庭) 第6群(職業
知識)
●地域や性別に関わりなく,
第4群を除く各群について少
なくとも35時間ずつ学び, 残
りの時間については, 地域や
性別により, 第1群から第5
群の中から選択して学ぶ。

単元のはじめに
とがらしが吹いて、野も山もめっきり冬らしくなった。道ばたの雑草も霜枯れ、雑木の落葉樹はすっかり葉が落ちて、田舎の山がもう真っ白になった。
私たちの花園や農圃もだんだんさびしくなり、常緑の木の葉は、色あせた葉がむかしの秋のなごりをとどめているくらいである。そこにこの開いた夏は、草を抜いて、帯にもめがず、力強い体を見せつけている。春以来育ててきたうさぎややぎもだいぶ大きくなって来た。
これから寒い冬を迎えるにあたって、私たちは作物や家畜の防寒を考えなければならぬ。また私たち自身も、寒風や自分のからだの防寒に注意して、寒風に強い体を迎えるようにしたいものである。
この單元ではつぎのようなことを学習する。
1. 草花の防寒 2. なま野菜の貯蔵
3. 麦の手入れ 4. 冬の防寒のせむ
5. 冬の衣服 6. ミシンの練習
7. 冬の栄養
夏や作物が防寒の準備をしないように、なるべく早めに防

1. 設計と工作図
(1) 視
図の工作図

ボタンが取れていたり、壊れがそのままになっているのは、いかにも見苦しいものである。
(1) ボタンつけとスナップつけ
ボタンつけのときは、ボタンの縫い目を正確に縫い分だけ深さよりにする。
スナップつけのときは、まず上側に凸形をつけてから凹形をつける。指差で押して下側に凸形のしるしをつけ、その場所に凹形をつける。
(2) きしつぎ・かざりきしつぎ・先穴つぎ
当て布はきしつぎのときも、またはなるべく同色のものを縫う。糸も目立たないようなものを使う。
a. きしつぎ
まじが薄くなったたり弱ったりしている所に、裏から布を出して、同色の糸で細かく縫ってじょうぶにする。弱った部分よりやや大ききましておく。
b. 先穴つぎ・かざりきしつぎ
穴の形をきれいに切りそろえて、つぎの図のように切り込み

「職業・家庭科」から「技術・家庭科」へ

史上初の人工衛星の打ち上げを契機とした、国際的な科学技術開発への関心は、国内でも変化を生み出す。経済の高度成長は産業構造や就業構造を変化させ、科学技術教育の規模の拡大と水準の向上への期待が高まってきた。

昭和33年の教育課程審議会の答申では、職業・家庭科を改め、これと図画工作科において扱われた生産技術に関する部分とを合わせることで、男子向きには工的内容を中心とする系列、女子向きには家庭科の内容を中心とする系列を学習させることが示された。

こうして、同年の学習指導要領で、必修教科として中学校「技術・家庭科」が創設された。なお同じ時期に職業に関する教科が選択教科となった。

出来事

- S22 日本国憲法施行
- S23 リングの唄
- S24 真空管ポータブルラジオ
- S25 JISマーク制定

- S26 産業教育振興法成立
- S28 NHKテレビ本放送開始
- S30 自動式電気釜
- S31 「もはや戦後ではない」

- S32 人工衛星スプートニク1号打上げ
- S33 東京タワー完成
- S34 ON時代
- S35 インスタントコーヒー